

と し ゃ か ん 宇 治

No. 11

1987年2月1日 発行

宇治市中央図書館

宇治市文化センター内

▽ 611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 (20)1511



私と読書

宇治市図書館協議会会長
島 本 脩

およそ読書とかけ離れた生活実態の者に、こんな題名で何かを書けとは随分無茶な話だと思っていました。毎日、文章や冊子に追いかけて生活しているので、恐らく読書家だろう位に良く思っただけと喜んでおくことにしました。正直なところ、読書生活とは程遠い、文字に目を通す(走らせている)だけの毎日なのです。本や文字に接している事では恵まれた環境の日々ですが、パラパラ程度に頁を繰っているか、幾らひいき目に良く言っても調べ読み程度の良いとこ取りが現実です。

何時か読もう、読まなければ、と思って手にする本が「積んどく」になって溜まる一方です。そのうちに退職でもすれば、と思っはいますが、その頃には興味も薄れ、目もうとくなるのでは、と焦る思いとひそかな心配が同居しているのが私の読書です。

それに引換え、大層なお役目をいただいたおかげで、再々訪れる中央図書館での光景には、文字離れ・活字離れ世代などという言葉が嘘のような気がします。私達の時代に、先輩や友人に借本したり、切ない思いで小遣いはたいして買った本を遅くまで読んで親から叱られたりした事を思い出し、羨ましさや豊かさに戸惑いすら感じる程です。素晴らしい環境、年々一千万円程度の図書購入費、年々増加の利用者。一層市民サービスになるよう私も努力しなければと考え、あえて恥を披露しました。

市民の投稿欄

図書館と私

伊勢田町 門脇洋子

宇治の町に移り住んで十四年、我が家と図書館とのつきあいで、図書室(旧市民会館内)へ行っては好きな本を手にして喜び、何度も何度も読み返していた子供達も、源氏物語、枕草子を学ぶ年頃になりました。お蔭様で本好きな子供に育ってくれたことを喜んでおります。

そよかぜ号で借りる本と合わせて三十数冊の本に囲まれた生活で、絶えず我が家の中心に「本」がないと(並んでいないと)寂しく、落ち着かなくて仕方がありません。毎月発行の冊子「新しく入った本のごあんない」はとても重宝しています。どんな本が入っているかしらと思ひながら、興味深い本はすぐ予約させて頂き、本との出会いを楽しみにしています。(時々欲深くたくさんの本を予約して申し訳なく思っています。)

一日百点の新刊本と言われる本

の洪水の中で、これからも色々なジャンルの本に触れることによって私なりに知識、情報を吸収し、良き妻、母、そして女性として豊かな感性を養っていきたいと思っています。これからもよろしくお願ひ致します。



“読書は永遠のニューメディア”

～読書週間40周年記念行事報告～

昭和六十一年は読書週間四十周年にあたり、宇治市中央図書館ではそれを記念して次の行事を開催しましたので報告します。

▼「小説にみる群像たちの世界」をテーマに歴史上の人物を題材にした小説約五八〇冊を展示。(10.28～11.29)

▼「源氏物語、宇治十帖の世界」八宮と大君」と題して、京都府立大学の中井和子先生による講演会を開催。九十四名の参加。(12.13)

はしれ!
そよかぜ号
「かみしばいのはじまり、はじまりー。」
昨年の十一月七日木幡公民館前、十九日緑ヶ原蔭田緑地、そよかぜ号の巡回日に、屋外でのはじめてのおはなし会「集まれノおはなし広場」を開催しました。これは、そよかぜ号の利用推進のPRもかねて読書週間記念行事として行なったものです。当日は両会場とも、子供たちをはじめお母さん方も大盛況、おはなし

ご協力を願ひします
図書館の中にある参考資料室は、調べものをする人のために各種の参考資料を配架し、その利用のために設けられた部屋です。ところが、最近、受験勉強等のいわゆる自習のために参考資料室を利用しているケースが増え、調べものための本来の利用がしにくい状況になってきています。公共図書館は、本の閲覧、貸出しにより利用者に本を提供したり、図書館にある資料で調査・研究を行う場なので自習をする所ではありません。以上の趣旨をご理解いただき、参考資料室での自習はご遠慮いただきますよう、よろしくお願ひします。



を楽しむ子供たちの歓声は空高くこだましていました。

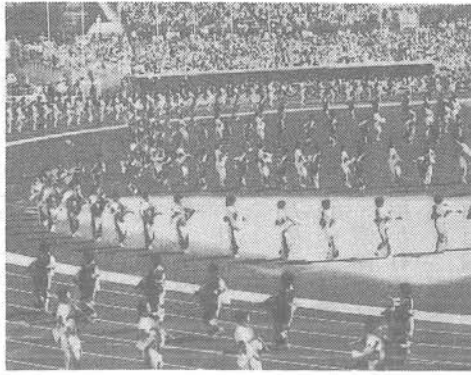
【質問】

六十三年の国体は、どのようにして行なわれるのですか。

【回答】

国体は昭和二十一年秋、戦災ですっかり気力を失った国民特に青少年を元気づけ、健康で明るい生活をとり戻そうと日体協が企画し、京都を中心にして開催されたのははじまりで、食糧毛布持参で全国から集まった若い力は、将来への希望を抱かせ大きな成果をあげました。京都は国体の発祥地です。

その後各都道府県持ち回りで毎年開かれ、全国の代表選手が一堂に集まるわが国最大のスポーツの祭典として発展し、本年沖縄県で



昭和六十一年秋 かいじ国体 (山梨)での婦人会の集団演技

開催される第四十二回大会で、全国を一巡することになります。

昭和六十三年京都で開催される第四十三回大会は、二巡目初回大会としてテーマ「京都国体」、スローガン「新しい歴史に向かって走ろう」のもと、夏季大会を九月四日から七日までを会期として水泳以下五競技、秋季大会は十月十五日から二十日までを会期として、陸上競技以下三十三競技と四行事が府下全域で展開されます。

宇治市では夏に夏季大会の開

ご存知ですか？



すぐれた観光、物産等を紹介するなど、宇治市へ来てよかったとい

【質問】

「レファレンス・サービス」とは、どんなことですか。

【回答】

「レファレンス」は、「参考業務」とか「参考奉仕」という意味です。もっとわかりやすくいえば「よろず相談」といってもよいでしょう。

私達は、日常の生活のなかで、仕事や趣味でのさまざまな疑問（特定の情報へのニーズ）が生じることがあります。それらは、身近にいる家族や友人に聞いたり、

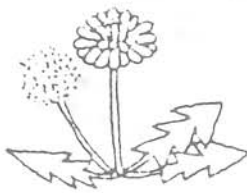
う印象をもっていただけると、全市民の協力が必要となります。

「レファレンス」は、来館による場合の他、電話や手紙による問合せにも応じています。「読書相談」から「よろず相談」にいたるまで、お気軽に申し出てください。ただし、医療健康相談、法律相談、物品の鑑定、身上相談、クイズなどにはお答え出来ません。

また、わからないことや知りたいたいと思うことを調べるために、「参考資料室」を設けています。この部屋には、白書や各種辞典類、百科事典、行政資料、郷土資料などを置いてあります。どうぞ御利用ください。

閉会式と水泳（競泳と飛込）、公開種目シンクロナイズドスイミングが太陽が丘で、秋にはサッカーとソフトボールが太陽が丘、西宇治公園、黄檗公園で行なわれます。従ってこれを機会にスポーツの振興を図るとともに、全国から多数の人々が来宇されるので、宿泊、輸送、接待等のお世話は勿論、美しい環境のもとで温かく迎え、事故災害のないよう留意し、本市の

手元の書物によって簡単に解決出来るものもありますが、解決出来ない場合はどこに尋ねたらよいかわからないものです。そのような時には図書館に尋ねてみてください。図書館は本を貸し出すだけでなく、情報を求める利用者に、資料をもとに解答への努力もしています。このようなサービスを、「レファレンス・サービス」とよんでいます。

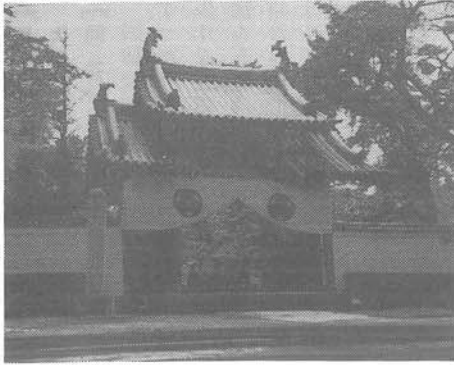


郷土のはなし

万福寺と隠元禪師

国鉄・京阪電車の黄檗駅から東に道をとると、一転、中国風の景観が目を見えます。中国からの渡来僧隠元（一五九二—一六七三）が開山した黄檗山万福寺です。

江戸時代初期、長崎では華僑たちにより、興福寺・崇福寺などが建てられ、明僧が招かれています。当時、名声の高かった中国福州（福建省）黄檗山万福寺（古黄檗）の隠元も、再々の招きで一六五四年来日し、興福寺・崇福寺・撰津普門寺の住職を務めました。



当時の仏教界に大きな反響をよんだ隠元禪師は、三年の約束で来日していましたが、彼を日本に留めおくべく、妙心寺の僧龍溪などにより幕府への働きかけがあり、一六五八年江戸にて將軍家綱に謁見、新寺建立が具体化します。帰国を断念した隠元に幕府は、当時の宇治郡岡屋郷五箇庄村大和田の地を寺地として与えました。隠元は寺院建立にあたって中国から多くの工人を招き、一六六一年に中国の黄檗山にちなんで、黄檗山万福寺（新黄檗）と命名し、開山しました。

隠元以来十三代まで山主は中国僧によって受け継がれ、行事・建物・仏像など万事が中国風で、異国情緒をただよわせています。おもな建物は重要文化財に指定されており、わが国有数の禅寺といわれています。

また、隠元をはじめ、明の僧や工人がもたらした「書」や「絵画」など、黄檗宗は美術にも大きな影響をあたえ、「黄檗美術」とよばれる花を咲かせました。

中国情緒をただよわせている静寂な境内を出ると、有名な菊舎の句が思い出されることでしょう。「山門を出づれば日本ぞ茶摘唄」

本をかりるには

一 利用案内一

中央図書館

市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方などなたでもかりられます。

- ・貸出は、1人3冊、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日
国民の祝日・年末年始
土曜・日曜もあいています。

移動図書館

月に市内24カ所を巡回しています。

- ・貸出は、1世帯に20冊までです。
- ・次回巡回日に返却して下さい。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかせ号」巡回日程をご覧ください。



編集後記

中央図書館が開館して三年目に入りました。いつも新鮮な図書を用意、くらしに役立つ情報を提供できるように、これからも

頑張っていきたいと思えます。

移動図書館「そよかせ号」は昨年十一月、車の故障のため、一部の利用者の方にはご迷惑をおかけしました。紙上を借りおわびさせていただくと共に、なお一層のご利用をお願いします。